

平成30年度下関市小学生中国派遣研修 報告書

下関市小学生中国派遣研修団 引率
下関市立文関小学校 教諭 野村 理映

下関市小学生中国派遣研修に参加する市内小学6年生の代表15名の引率として、中華人民共和国青島市を訪問した。

期間は、平成30年10月13日（土）から17日（水）までの4泊5日である。研修団全員が役割を果たすべく取り組んだ貴重な研修について、以下のように報告する。

1 事前研修

◇ 開講式 7月21日（土） 下関市生涯学習プラザ 9：30～10：00

下関市生涯学習プラザにて、開講式が行われた。下関市総合政策部国際課の安部課長の挨拶に続き、団長・引率が挨拶し、団員の自己紹介と続いた。団員たちは、初めての顔合わせに緊張しながらも、この研修を通して学びたいことをしっかりと伝えていた。それぞれの自己紹介の中に何度も「チャレンジ」という言葉がでてきて、団員たちの意欲が感じられた。中島団長から、「自分の小学校や下関市の代表としてばかりでなく、日本の代表としても見られている。しっかりと研修しよう。」という話があり、みな深く頷いていた。

◇ 第1回事前研修会 7月21日（土）下関市生涯学習プラザ 10：00～12：00

はじめに、旅行会社の方から、日程等の概略説明や海外における心得などの説明を保護者の方々も一緒に聞いた。

この後、団員だけの研修となる。緊張感が隠せない団員たちに対して、まず下関市総合政策部国際課 和木田主任主事の指導により、アイスブレイキングとして「他己紹介」という活動を行った。団員たちは2、3人組になり、相手に様々なことをインタビューしていき、聞いたことを後で全団員に紹介していく。ここでピアノやウクレレ、三味線が弾けること、英語やヘッドスプリングが得意なこと等、一人ひとりの特技があきらかとなり、同時に団員たちの個性も際立ってきた。お互いのことがよく分かると、笑顔も見られるようになり、少し打ち解けてきたところで団員のリーダーを決めた。多くの立候補者があり、それぞれが話し合った結果、村脇団員がリーダーとなった。早速リーダーの司会で、訪問先での交流会の出し物について話し合った。各自の特技を生かした出し物がすぐ提案された。また、「劇をする」「日本の昔話を紹介する」などのユニークな提案もあり、次回の研修までに

各自で検討してくるようになった。

◇ 第2回事前研修会 8月7日(火) 下関市生涯学習プラザ 9:30~12:00

訪問先での挨拶の担当者を決めた。中国語での挨拶も必要となるが、ここでも各団員の意欲が表れ、速やかに担当が決まった。

次に、前回持ち越していた交流会での出し物について話し合った。工藤団員は、「劇や語りで伝える」出し物について、自分で考えたことをしっかりとメモしてきて発表した。石田団員は、前回「ふるさと」の歌を歌うとよいという案が出たことを受け、自分がピアノで伴奏しているところを動画に撮って紹介した。結局、「昔話を劇にし、劇中に日本や下関等に関するクイズを入れながら紹介する」ことが決定し、引率の野村が準備していた台本をもとにして役割分担・練習が始まった。劇は「ももたろう」をすることになり、劇・クイズの2グループに分かれて詳細を話し合った。それぞれのグループで、団員の個性を生かした楽しい提案がなされていた。

最後に、中国語の学習をした。和木田主任主事の指導で四声について学び、自分の名前の発音練習をした。団員一人ひとりが自分の名前を中国語で発表してみたが、四声が難しい上に日本語にない発音も多く、かなり苦戦していた。

◇ 第3回事前研修会 9月2日(日) 勝山公民館 13:30~16:00

まず、青島市の日本人学校から「中国のイメージ」について質問を受けていたので、そのことを話し合った。リーダーの村脇団員の司会で話し合いを進めた。団員たちは「人口が多い」「歴史がある」「環境はあまり良くない」という印象をもっているようであった。

その後、今回までに考えてくる約束であった、出し物の中に取り入れるクイズの問題を発表した。きちんと全員考えてきており、よい問題がたくさんあった。

今回の派遣研修では、現地小学校等で披露する出し物で劇やクイズを取り入れるため、その練習に多くの時間が必要である。団員たちは早速、劇・ナレーター・クイズの3つのグループに分かれ、中島団長・引率野村・和木田主任主事が支援をしながら練習をした。中国語でのナレーションは国際課の郝さんに発音を確認していただき、みんなが考えてきたクイズの中から取り入れるものを決めたり、劇の動きを確認したりと必死で練習をし、最後には一回通してみても、どうにか流れがつかめてきたようだった。発表を見られた郝さんから「感動した。」という感想をいただき、みな表情が緩んだ。中国語は難しいけれど、自分たちが楽しんでしっかりと表情や身振りでも伝えていこうとみんな確認した。

最後に、今回はしっかりと中国語の学習をした。郝さんから青島市の様子などもお聞きし、自己紹介

や簡単な挨拶などを何度も声に出して練習した。また、家でも練習できるように和木田主任主事が練習用 CD を作ってきてくださった。今後は家庭でも各自練習することができる。

◇ 第4回事前研修会 9月30日(日) 下関市生涯学習プラザ 9:30~12:00

事前研修としては最後の研修会になった。しかし、研修室に入ってくる際の挨拶がなかったり、ほとんど聞き取れない声であったりする団員もまだ見られた。研修を始めるに当たり、まず、「団員は学校代表というだけでなく下関や日本の代表であること」、「それにふさわしい態度はいつから必要なのか」、ということ団員たちに問いかけた。自分の行動を振り返り、「今から変える。」等のつぶやきが聞こえた。態度も成長してほしいことを伝えた。

前回の研修で、出し物に使う小道具を各自作ってくることを決めていた。団員は、それぞれ工夫した力作を持ち寄っていた。この時期には団員みな運動会や修学旅行という学校行事の中で、6年生としての役割をもって活動していたと思われるが、その合間を縫って派遣研修の準備も確実に進めていたことに感心した。

そろそろ派遣日やそれに関わる行事も近づいてきたので、まずは挨拶の練習をした。各自緊張しながらの挨拶であったが、既に中国語をしっかりと覚え、なめらかに発音する団員もいた。

出し物の練習はもう今回が最後だが、まだまだ劇の声や動きなど改善すべき点が多く、演じる方も指導する側も必死であった。しかし、「これが最後！」と全体を流してみると、ぴったり予定の10分に収まり、さすがに力のある子供たちであると再認識した。

◇ 結団式(市長表敬) 10月1日(月) 下関市教育センター 16:45~17:15

下関市教育センターにて、結団式が行われた。

団長・引率の挨拶の後、団員は一人ずつ自己紹介をした。また、植田団員は代表として今回の派遣研修でめざすことや将来の夢を伝え、「中国と日本との架け橋になりたい。」と挨拶をした。前田市長から親善大使としての認定証とバッジをいただいた。緊張した雰囲気ではあったが、その後、交流会での出し物を披露することになり、中国語での「ももたろう」のクイズ入り劇の発表をする時には、見ている方々から笑い声も聞かれた。前田市長からは「恥ずかしいと思う気持ちを捨てて、青島の方々としっかり交流し、言葉を交わして、感性を磨いてほしい。」と激励の言葉をいただいた。前田市長からの話を聞き、認定証等をいただいたことで、団員としての使命を再確認した結団式となった。

2 中国訪問

1日目：10月13日（土） 晴

時刻	研修内容等	研修の様子
11:00	出発式 (新下関駅)	<p>・団員15人全員元気に集合した。 保護者や学校関係者など、約30名に見守られての式であった。 「みんなで協力し、様々なことにチャレンジしたい。」という松原団員の意欲に満ちた立派な挨拶に、大きな拍手が起こった。 団員や家族で写真撮影をし、家族に「行ってきます。」と大きな声で挨拶をして新幹線のホームに上がった。</p> 
11:25 12:00 12:45	さくら549号で出発 地下鉄で福岡空港へ 連絡バスで国際ターミナルへ バスで移動後機内へ	<p>・大きなスーツケースを持ち歩くため、新幹線に乗る際も時間がかかった。席に座ると、いよいよ出発したとの緊張感からか、団員はみな言葉少なだった。添乗員の加野さんの後について博多駅を移動し、地下鉄に乗り込む。副リーダーの近藤団員は、常に最後尾でみんなを確認していた。</p>  <p>・福岡空港に着き、加野さんに荷物の管理などについて説明を受ける。搭乗手続きの際、手荷物に持ち込み禁止のはさみを入れていたり、スーツケースにカメラのバッテリーを入れていたため移動させなければならなかったりし、時間がかかる。パスポートの大切さも十分に理解できておらず、いすや床の上に置いたままにしていることもあってひやひやした。</p>
14:40	中国東方航空機で出発	<p>・機内から窓の外の様子を写真に撮る団員が多かった。 ・サンドイッチの機内食が出され、団員たちは早速口に運ぶが、「日本のと味が違う。」と早くも日常との違いにふれていた。ほしい飲み物を乗務員に伝える際には「Apple」「Orange」と英語で伝えている団員もいた。</p>
16:00 ここから現地時間	青島空港着	<p>・団員はみな緊張しながらも入国審査を受ける。荷物を持って空港を出るとほっとして、「都会だあ！」のつぶやきが聞こえる。 ・青島市国際課の畢さんとガイドの姿さんの出迎えを受ける。</p>

<p>16:30</p> 	<p>バスでホテルへ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車中で姜さんから青島市や山東省についての話を聞く。 ○ 人口900万人の青島市。経済金融の中心地。 ○ 青島市の歴史は120年ほど。昔は漁村だった。 ○ 1897年にドイツが入り、町を創った。旧市街地と呼ばれる場所。現在ビール醸造が有名なのもその影響。 ○ 山東省の有名人・・・孔子、孟子、孫文など ○ 膠州湾には36.5kmの世界一の長さの橋が架かっている。 ・車窓から青島市のメインストリートやビヤホールなどの明るいネオンの輝く町を見ながら話を聞いたが、疲れたのか寝ていたり、写真を撮ることに一生懸命になっていた様子が見られた。
<p>17:00</p>	<p>ホテル着</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックインし14・15階の部屋に入る。
<p>18:00</p>	<p>ホテルのレストランで夕食</p> <p>近所のコンビニで買い物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて団員一緒に食べる食事である。回るテーブルと飲み物は白湯かレモン水という状況、日本の「中華料理」とは違う味付けの料理に面食らいながらも、いろいろチャレンジして食べていた。 ・ホテルで両替をし、食後に近くのコンビニへ飲み物などを買いに行く。コーラが大変安いと男子の団員には大人気であった。レジでお金を支払っても、袋に入れるでもなく、シールを貼るでもない。商品をそのまま持って店から出ることによって少々違和感を覚えながら、初めての買い物は無事終了する。 
<p>19:45</p>	<p>反省会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルに戻り全員ロビーに集合して反省会をする。挨拶の声が小さいこと、姜さんの説明にメモも取らず、写真ばかり撮っていた態度を振り返り、今からの自分のめあてを再確認する。加野さんよりシャワーカーテンの説明を受け、解散する。
<p>【今日の振り返りより】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今日学んだことは夕食での中国の文化と買い物の体験です。中国ではこういう物を食べるということが分かりました。一番おいしかったのはえびです。中国は味の薄いものが多かったです。また、中国独特の味がしておいしかったです。買い物は「1元は16円・・・」と考えたりしながら買いました。日本にはないお金の単位で難しかったけど、中国の文化を学ぶことができました。(森本団員) ○ 今日は家族と別れて飛行機に乗って青島に来ました。いろいろな人にお世話になりました。でも今日はあまりあいさつができなかったから、国の代表で、学校では運営委員もやっていたあいさつ運動を呼びかけているのに、私がいさつをしていないのはいけないから、明日のセンターは一生懸命がんばってみんなにきちんとあいさつをしたいです。(近藤団員) 		


2日目：10月14日（日） 晴

時刻	研修内容等	研修の様子
7:00	ホテルでバイキング形式の朝食	<ul style="list-style-type: none"> ・全員元気に顔をそろえる。朝食にはお粥や揚げパン、小麦粉で作られたであろう麺などが並んでいた。和木田主任主事おすすめの揚げパンは女子団員に人気であった。
8:30	バスで出発	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の午後はいよいよ出し物の披露もあるので、「ももたろう」の小道具を持ってバスに乗る。ガイドの姿さんの案内を受けながら、青島極地海洋世界に向かう。
9:00	「青島極地海洋世界」視察	<ul style="list-style-type: none"> ・青島極地海洋世界は、朝早くから賑わっていた。規模の大きい水族館を想像していたが、極地の様子をジオラマで再現しているコーナーがあちこちにあり、テーマパークのようであった。団員たちは自由に視察した。海響館のペンギンの水槽にあるトンネルのような場所があり、人気であった。 ・団員たちはショップに並ぶ商品にも興味をもち、友達や兄弟へのおみやげにと買い求めていた。店員さんには日本語はもちろん英語もあまり通じず、みな身振り手振りで買い物をした。商品を袋や箱にも入れず、そのまま渡すのはコンビニと同じである。 ・30分程度のイルカのショーを見た。かなり広いホールが満員になり、しかも観客は大人が多く驚いた。
12:00	バスで移動後、昼食レストランの駐車場で出し物の練習	<ul style="list-style-type: none"> ・レストランにて昼食後、駐車場にて「ももたろう」の練習を行う。2週間前の練習が最後であったが、団員は中国語のせりふを一層よく覚えてきており、事前研修後も努力をした成果が認められる。ガイドの姿さんからも「ちゃんとわかる。」とお墨付きをいただいた。
14:00	青島市婦人児童活動センター訪問	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童が週末などに活動するセンターである。舞踊や楽器の演奏、工芸品づくりなど様々な活動が行われている。司会役の児童の歯切れの良い口調とにこやかな笑顔、ドレスやタキシードという衣装に圧倒される。初めに中島団長と団員代表の近藤団員が挨拶をした。中国語での挨拶に大きな拍手を受けた。続いて双方の発表を行った。青島市の児童からは舞踊や伝統楽器の演奏などが披露された。きれいに化粧をし、美しい衣装を着ての完成度の高い発表に、また圧倒された。いよいよ、団員たちの発表である。みな練習通り堂々と演じ、青島の児童たちも笑顔で見ている。劇中のクイズコーナーは特に盛り上が



		<p>り、正解すると「イエーイ！」と日本と変わらぬ大きな歓声があった。自分たちが表現したことが伝わったことが分かり、団員はみな達成感を感じたようであった。</p> <p>・各々の発表の後は、交流活動となった。青島市の児童が披露した木製の楽器の扱い方を一人ずつに丁寧に教えてくださった。なかなか難しく上手くはできなかったが、団員も児童たちも身振りで伝えたり、一緒に持って鳴らそうとしたりしていた。別れ際に団員とハグをする様子も見られた。</p> <p>・中国の伝統的な切り紙にも挑戦し、各自作品を作った。代表の石田団員の中国語による挨拶の後、センターを後にする。</p>
<p>16:30</p>	<p>公園を散策 忘れ物を取りに戻る</p>	<p>・海のそばの景色のすばらしい公園を散策する。青島のシンボルである「五月の風」のオブジェも見え、多くの人が訪れていた。ここで一人の団員が婦人児童活動センターにデジカメを忘れたことに気付き、センターまで取りに戻る。</p>
<p>17:30</p>	<p>イオンで買い物</p>	<p>・初めての交流活動を終え、団員たちの表情も緩んだ。市内の大きなイオンでおみやげなどを買う。イオンは、表示が中国語であることを除けば日本とあまり変わりがなく、団員も安心感があるようだった。お菓子や文房具を買っていた。</p>
<p>19:00</p>	<p>レストランで夕食</p>	<p>・回るテーブルにも飲み物の白湯にも慣れ、賑やかな夕食である。大きな肉団子が男子の団員に人気であった。魚にかかっていたたれが大変に辛く、食べた団員が涙を流すほどであった。</p>
<p>20:20</p>	<p>ホテルに戻り反省会</p>	<p>・ホテルのロビーで反省会をする。中島団長から、大勢の人の前でもなめらかに話せるほど中国語の練習をしてきた団員たちを褒める言葉があった。交流活動にも進んで取り組み、自分の研修のめあてもはっきりしてきたようである。</p>
<p>【今日の振り返りより】</p> <p>○ センターで桃太郎の劇をしたときに、クイズを出すと全員楽しそうにしていたのでうれしかったです。自分の中国語が伝わったことを実感できました。中国の小学生と言葉は通じなかったけれど、動作などで上手にコミュニケーションをとることができました。たくさんの人とふれあえたことで自分に自信をもつことができ、とてもいい経験になりました。(坂元団員)</p> <p>○ 青島婦人児童活動センターでは、中国の文化を学ぶことができました。中国の小学生に協力してもらい、しっかりと「Thank you」と言うことができました。「あいさつ」は100%できたと思います。これからもしっかりとあいさつをしていきたいです。明日はどんな発見があるか楽しみです。(石田団員)</p>		

3日目：10月15日（月） 晴

時刻	研修内容等	研修の様子
7：00	ホテルでバイキング形式の朝食	・全員元気に顔をそろえる。女子の団員は、これまで食べたことのない麺などにも挑戦していた。
8：45	ホテルを出発	・バスの道中で姜さんの説明に熱心にメモをとる姿が見られた。昨日の婦人児童活動センターでの交流会の様子が、早速センターのホームページにアップされていた。中国語が上手だったとの記事にみな笑顔になる。
9：15	在青島日本総領事館表敬	<p>・青島金融中央（センター）ビルの45階にある日本総領事館を訪問する。担当の方から領事館の仕事の説明を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 領事館は例えれば、市役所のようなところ。 ○ パスポート更新やなくしたときの窓口。 ○ 青島に住んでいる日本人の援護。 ○ 窓口・・・旅券発給、紛失・更新などへの対応、結婚証明、選挙、査証（ビザ）発給 等 <p>・山東省だけで1年間に16万人も日本へ渡航し、年々増えている。</p> <p>・2重扉で区切られた厳重なセキュリティーの会議室にも通される。福永首席領事からのお話を聞く。「まずは日本のことをよく勉強するのが大切。するとそれと比べて他国のことも分かる。」との話を団員は真剣に聞いていた。原田副領事からは外務省の仕事について説明を受ける。資料に沿っての分かりやすい説明であった。説明が終わると、団員は意欲的に手を挙げて質問していた。中島団長と工藤団員がお礼の挨拶をする。</p>
		
11：20	青島市教育局表敬	<p>青島市教育局の姜副局長より、青島の学校や教育の状況の説明を受けた。青島市国際課の謝さんが通訳をしてくださった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 下関市とは一番初めに友好都市となった。 ○ 青島市に小学校は722校ある。 <p>・「中国ならではの授業はあるか。」などの団員の質問に、1人1スポーツに取り組むこと、海洋教育があること、芸術も選んで取り組んでいるとの説明を受けた。</p> <p>・中島団長、磯奥団員（中国語で）の挨拶、記念品交換、写真撮影を行った。</p>
12：00	レストランにて昼食	・餃子がおいしいと有名なレストランで昼食を食べた。様々な種類の餃子や焼売がでて、団員はたくさん食べていた。
14：00	太平路小学校訪問	<p>・校門を入ると、たくさんの児童に盛大に出迎えを受けた。</p> <p>・ホールにて歓迎会が行われた。坂元団員の中国語の挨拶の後、</p>



団員全員も中国語で自己紹介をする。太平路小学校の児童は伝統的な楽器の演奏や詩の朗読などを発表した。団員たちも「ももたろう」を発表した。クイズはやはり盛り上がり、団員の顔にも安堵感が浮かんでいた。

- ・影絵で使う人形を小学生と一緒に制作する。松原団員は漢字を書いた筆談でコミュニケーションをとっていた。教室の前面にはどの部屋にも電子黒板がはめ込まれ、先生方がそれを使って説明されるのを団員は驚きをもって見つめていた。

- ・小学生が作ったロボットを動かして対戦するゲームに参加する。特に男子の団員は積極的に参加し楽しんでいた。

- ・人工芝が敷き詰められた運動場での武術のけいこに加わる。柔道が得意な磯奥団員は、形がよいのか、先生から個別指導も受けていた。

16:30	栈橋へ	<ul style="list-style-type: none"> ・古くから青島市のシンボルとされる栈橋で散策する。
17:30	青島市政府主催 歓迎夕食会	<ul style="list-style-type: none"> ・青島市国際課主催の夕食会であった。国際課の謝さんと畢さんと一緒に立派なレストランで夕食をいただいた。会食中、団員一人ずつが感想を発表した。松原団員は身振り手振り、筆談でコミュニケーションをとったこと、工藤団員は青島市の町の様子、森本団員は買い物で困ったときの周りの人の温かい対応、畚野団員は「ももたろう」が伝わったうれしさを発表していた。増見団員、河崎団員の中国語での挨拶も、謝さんたちが「分かります。」と評してくださり、自信がもてたようである。
20:00	ホテルに戻り解散 コンビニで買い物	<ul style="list-style-type: none"> ・いつものようにロビーで反省会をする。交流活動としては明日が最後になること、出発が早いので遅れないことを確認し解散する。近藤団員が腹痛を訴え、部屋で安静にしておく。買い物が必要な団員のみコンビニに行く。カードキーを部屋に閉じ込めた団員もあり、遅くまで加野さんに対応していただいた。

【今日の振り返りより】

○ 現地小学校では、授業参観の時に筆談することができたのでうれしかったです。また、ロボットを作っている教室ではレゴブロックでも精密なロボットを作れることにびっくりしました。カンフーは世界チャンピオンの人の足どうでの筋肉にびっくりしました。教育局では、青島の小学校のことや文化を知ることができました。領事館では外交官の仕事に興味をわいたので、自分のなりたい職業の視野に入れておこうと思いました。(松原団員)


○ 今日小学校訪問では劇はとても上手くできたのでよかったです。授業参観では3年生の子と一緒に協力しながら人形を作ることができ、結果的にはその子と仲良くなることができたのでうれしかったです。ですが、カンフーの授業の時少しふざけて怒られてしまったので、そこは反省して、明日の研修は自分は何をしに来たのかを考えて行動したいです。(村脇団員)

4日目：10月16日（火） 晴のち小雨

時刻	研修内容等	研修の様子
7:00	ホテルでバイキング形式の朝食	・近藤団員の腹痛もすっかりおさまり安心する。全員元気に顔をそろえた。
7:30	ホテルを出発	・ある団員が、デジカメのバッテリーがなくなると昨夜、探していたが、バスに残っており安心する。研修中、あちこちで忘れ物が多かった。ガイドの姿さんやバスの運転手さんに対する「你好」「謝謝」等の挨拶は、既に自然と口をついて出るようになってきた。
8:10	青島日本人学校訪問	<p>・学校の玄関で子供たちの出迎えを受ける。校長室で金森校長より、学校の概要の説明を受ける。</p> <p>・現在、青島日本人学校には小一から中三まで76人の子供たちが在籍している。児童の転出入が多い。3学期制だが、中国の休み（春節や国慶節など）に合わせても休むため、夏休みは短い。</p> <p>・体育館に全校の子供たちが集合する。西村団員の挨拶の後、お互いの出し物を発表する。日本人学校の6年生の児童は7人で和太鼓の演奏を、団員たちは「ももたろう」を発表した。劇の披露も3回目であるので、鬼役の村脇団員や工藤団員はアドリブを加えるなど、工夫が見られた。「ふるさと」の歌の場面では石田団員がピアノを弾いたが、各訪問場所の様々なピアノでも完璧な伴奏をしており、感心した。</p> <p>・金森校長の案内で校内を見学する。団員たちは、屋内プールがあることに驚嘆の声を上げていた。</p> <p>・6年生の教室で、児童7人との交流活動を行う。自己紹介の中で「実は私は・・・」という発表を入れることになり、みな大笑い。楽しい雰囲気活動する。</p> <p>・児童と団員たちは4つのグループに分かれて「中国のいいところ・日本のいいところ」を話し合った。すぐに打ち解け、あちこちで笑い声が上がる。事前研修の際に団員たちは中国に対して「環境がよくない」など、あまり良いイメージを抱いていない様子も見られたが、この時には「安い・優しい・夜景がきれい」などの発言が聞こえ、思いの変化も感じられた。</p> <p>・全校の子供たちと記念撮影をし、見送りを受けてバスに乗り込む。村脇団員は「久しぶりの日本語だ。めっちゃ楽しかった。ふつうに日本だったな。」とつぶやいていた。</p>
		
		
11:00	レストランで昼食	・飲茶で有名なレストランに移動する。西村団員が車酔いで気分が悪いとのことであった。増見団員がすぐそばにつきそう。他の

		女子団員たちもみなそばにいた。昼食には小籠包等を食べた。食べていると西村団員も良くなったとのことで安心する。
12:40 13:00	石老人公園を散策 高速道路を使って ろう山区へ移動	・広い砂浜を団員たちは走り回って遊んでいた。 ・市街地を離れる。昔からの古い家屋が建ち並ぶ町も見えた。
14:00	フランスア訪問 (日系企業)	○ 責任者の伊名岡さんから説明を受ける。 ・フランスアは中国に11店ある。青島工場は2014年に建てられた。1日およそ3万個のパンを製造している。 ・白い作業服やマスク、帽子をかぶり、製造過程を見学する。 日本と同じ品質で製造し、安全安心なパンを届けるための工夫があちこちで見られた。団員たちは、各自ソーセージパンとあんパンの試作をさせていただく。大喜びで自分のパンにマヨネーズを塗ったりごまを付けたりしていた。 ・試作したパンを焼いている間、伊名岡さんから再び「発酵」について説明を受ける。また、団員の質問も受けてくださった。河崎団員の「なぜ、中国へ？」との質問に「日本は小さい。隣の大きな国でチャレンジしたかった。」とか「食べ物の研究は終わりが無い。」など熱く語ってくださり、団員たちは「情熱大陸だ！」とつぶやいていた。中村団員が立派な挨拶をし、自分で焼いたパンをおみやげにいただいて工場を後にする。みんなバスの中で早速パンをほおぼっていた。
17:20	イオンで買い物	・最後の買い物をする。大きなぬいぐるみなども買う団員がいた。2回目なので買い物もスムーズであった。
18:30	レストランで夕食 ヨットハーバーから 夜景を見る	・最後の夕食なので、男女混合でテーブルを囲む。隣の席が誰でも、話はずんだ。食後に、サミットが行われた会議場前のヨットハーバーから夜景を觀賞する。和木田主任主事から「青島からのプレゼントです。」と言われて見た景色は、ビルが色とりどりにライトアップされ、その美しさにみんな大喜びであった。
21:00	ホテルに戻って反省 会	・明日は出発が早いので、必ず今日の内に荷物の整理を終えてから就寝することを確認し、解散する。
<p>【今日の振り返りより】</p> <p>○ フランスアでは、中国でも自分たちのパンは通用するのかというパンへの熱い思いとお客さんへの優しさを感じることができました。日本人学校では同じ日本人に桃太郎の劇を見せることができました。今回が最高のものだったと思います。(河崎団員)</p> <p>○ 今日ぼくは、日本人学校で友達をつくりました。ぼくは面接のとき和木田さんに「国をこえた友達づくりをしたい。」と言いました。この旅のめあてであった国をこえた友達づくりが達成できてとてもうれしかったです。新下関駅までが研修なので、後1日気を引き締めていきたいです。(中村団員)</p>		

5日目：10月17日（水） 晴

時刻	研修内容等	研修の様子
6：50	バスに荷物を運び入れる ホテルで朝食	<ul style="list-style-type: none"> ・目覚ましは鳴らなかったとあって7時過ぎにまだ準備ができていない団員もいた。昨晚荷物の片付けはしていたので大急ぎで着がえ、7：15ごろやっと荷物をバスに入れた。 ・最後だからと、好きになったものをたくさん食べていた。
7：30	バスで青島空港へ	<ul style="list-style-type: none"> ・青島最後の日も快晴。世界最長の橋がこの日もよく見えた。
8：00	青島空港到着 バスで移動後機内へ	<ul style="list-style-type: none"> ・すっかり仲良くなったガイドの姜さんや運転手さんと写真を撮り、ここで運転手さんとはお別れする。何度も握手をする団員もいた。 ・出国の際、ある団員のスーツケースの中の荷物でトラブルが発生して長い時間がかかる。結局、理由はよく分からなかった。機内に乗り込むのが最後となり、空港内を走って移動のバスに乗り込み、タラップを駆け上がった。
10：20	中国東方航空機で出発	<ul style="list-style-type: none"> ・団員たちは、機内で座ってやっとほっとした表情になる。5日間も過ごした青島との別れを思うのか、窓の外をずっと見ている団員もいた。
13：30 ここから日本 時間	福岡空港到着	<ul style="list-style-type: none"> ・予定どおり福岡空港に到着する。入国の際に、団員が床に置いたままにしていたパスポートを、他の団員が間違えて持って入国窓口を出てしまうというトラブルが起り、また長い時間心配しながら待つ状況となる。どうにか解決し、日本語が通じるありがたみを感じながら、やっとバスに乗り込む。
14：00	バスで新下関へ移動	<ul style="list-style-type: none"> ・途中、古賀でトイレ休憩をする。バスを降りる際に、運転手さんに「謝謝」と言ったり、自動販売機の多くの種類の飲み物の中からミネラルウォーターを選んだり、5日間の中国での生活の名残が感じられた。
16：00	新下関駅到着 解団式 	<ul style="list-style-type: none"> ・約30人の出迎えの方に見守られての式であった。野村団員が5日間の研修で学んだことを述べた。最後には「15人で一緒に過ごしたこの研修のことを、一生忘れません。」と涙ぐみ、他の団員も胸を熱くしたようであった。団員全員がすべての行程に参加できたこともすばらしかった。 ・5日間大変お世話になった和木田主任主事、加野さんに、村脇団員がみんなをリードしてお礼を言う。 ・写真撮影

終わりに、このような貴重な機会を与えてくださいました前田下関市長をはじめ、関係機関の皆様にご感謝を申し上げます。ありがとうございました。